

特集

-大田原マラソン-

大田原マラソン大会は、昭和 63（1988）年に始まり、平成の時代を超え、令和元（2019）年の今年で第 32 回を迎えます。昭和の時代に始まった大田原マラソン大会について、当時のことを知る機会も少なくなっていると思いますので、その歴史を振り返ってみましょう。



(第1回スタートの様子)

始まりの物語

昭和 59(1984)年、当時の渡邊正義市長が選挙公約において「市制 30 周年を記念し、大田原市に栃木県内唯一の日本陸上競技連盟（以下、「日本陸連」という。）公認のマラソン大会を誘致する。」と掲げたことが、大田原マラソン大会誕生のきっかけとなりました。

しかし、当時は日本陸連と警察庁の間に、新しく公認のマラソン大会を承認しないという暗黙のルールが存在する時代でした。そこで、当時、栃木陸上競技協会（以下、「栃木陸協」という。）の記録部長であり、昭和 55(1980)年の栃の葉国体などで日本陸連と人脈のあった菊地強氏（現・栃木陸協副会長）に窓口役を依頼し、日本陸連審判部副部長であった若林定夫氏（菊地氏の大学の先輩）に直接相談できる強力な体制を整え、日本陸連の「公認」を獲得するための交渉が始まりました。

日本陸連との窓口として無理難題を抱えた菊地氏でしたが、若林氏ら関係各位からの助言を得ながら、那須陸上競技協会の仲間と協力することでひとつひとつ解決し、あと一歩のところまでたどり着きます。最後の壁として立ちちはだかったのは大田原マラソン大会の開催を予定していた 12 月に、すでに日本陸連公認の福岡国際マラソンが開催されていたことでした。福岡国際マラソンは毎年 12 月第 1 日曜日に行なわれる、世界のトップランナーが集うマラソン大会です。日本陸連は同時期に開催することで日本のトップランナーが分散することを理由に、決して首を縦に振りませんでした。

そんな逆風の中、菊地氏らは「大田原マラソンは日本陸上界の将来を担う若手の新人発掘、育成の大会であり、大田原マラソンと福岡国際マラソンのランナーは競合しない」と、日本陸連の譲歩を引き出す交渉を粘り強く続け、ついに『特別』に日本陸連の承認を得ることに成功したのです。無事「公認」のマラソン大会を開催できることになったものの、代償として大田原マラソン大会には『制限時間 3 時間 30 分』という非常に厳しい条件が課せられることになりました。こうした当時の常識では不可能とも思える状況乗り越え、昭和 63 年 12 月 4 日（日）、「第 1 回大田原全国マラソン大会」が開催されたのです。

（注 1）開催日は、第 4 回大会から「11 月 23 日（祝）勤労感謝の日」に固定されました。

（注 2）第 5 回大会から「制限時間 4 時間」に緩和されました。

歴代のコース

1代目コース



【第1回～第7回】

当時の大田原市の環状線であるライスラインを反時計回りに進み、国道4号線の手前を折り返し、大田原市街地を抜けて陸上競技場のゴールを目指すコース。前半のライスライン（宇田川～鹿畑間）が「ジェットコースター」と称された。



2代目コース

【第8回～第12回】

第5回記念大会を一区切りとして「より記録の出るコース」との理念を掲げ新コースの検討を進めた。2代目コースは、高低差の少ない当時の大田原市の中心部を2周回する「高速コース」と呼ぶにふさわしいコースとなっている。



【第13回～第22回】

第13回大会から、陸上競技場の改修に伴い、復路のルートが陸上競技場の北門から進入するコースに一部変更された。



3代目コース

【第23回～現在】



平成17年（2005年）の市町村合併を機に、市内を回る1周回コースに変更。

前半が下り、後半が上りのすり鉢状のコースで、大田原名物の「那須おろし」がランナーを待ち受ける。

【パリマラソンへの選手派遣】

第5回記念大会から、大田原マラソン大会の成績上位者を、翌年4月に開催されるフランスのパリマラソン大会に派遣しています。パリマラソン出場を狙う若手のエリートランナーが大田原マラソン大会に参加することで、大田原マラソン参加者全体のレベルアップが図られ、大田原マラソン大会の名前も全国に知れ渡ることになりました。

【パリマラソン選手派遣状況】（第5回～第31回）

男子：62名 女子：39名 合計：101名



(2018年)



(2016年)

【Run as One – Tokyo Marathon】

東京マラソン2015から、東京マラソン財団、栃木陸上競技協会及び大田原マラソン大会の3者提携協定により、大田原マラソン大会参加ランナーの内、栃木陸協登録者で基準タイムをクリアしたランナーを、東京マラソンの「準エリート」として推薦しています。

東京マラソンを中心とした全国のマラソン大会が連携し、マラソンムーブメントを盛り上げています。

[基準タイム] 男子：2時間55分00秒以内 女子：3時間40分00秒以内

【マラソンチャレンジカップ(MCC)参加】

アールビーズスポーツ財団が主催するMCCは、全国の主要マラソン大会が連携し「マラソンに挑戦するすべてのランナー」を応援するプロジェクトです。大会新記録で優勝したランナーに、タイムに応じた賞金が授与されるなどのサービスが充実。日本記録を更新すると賞金1億円が贈呈されます。大田原マラソンは第1期（2017-2018）から参加しています。

[大田原マラソン大会記録] 男子：2時間14分53秒（賞金：50万円） 女子：2時間33分38秒（賞金：50万円）

【マラソン豆知識】

マラソンコースの距離をどうやって測るか知っていますか？

「長距離競走路ならびに競歩路公認に関する細則」では、

(距離計測)

第3条 競走(歩)路の計測は、自転車計測およびワイヤー計測によるものとする。

(1)ワイヤー計測 ワイヤーに真の50mを移設し、50mごとに計測する。

(2)自転車計測 自転車に専用のカウンターを取付け、基準の距離(概ね400m)をカウンター数に換算して、自転車で計測する。距離の減少を防止するため0.1%を加えて計測する。

IAAF / AIMS 認証コースでは、自転車計測としなければならない。(以下省略)と定められています。

大田原マラソンのコース検定でも、現在は、自転車計測により3人の審判員がコースの最短コースを走って距離を計測しますが、平成19(2007)年の検定ではワイヤー計測により、約30人がかりで50mのワイヤーを動かしている記録が残っています。

声援をお願いします！

大田原マラソンは、発足当時のコンセプトである「若手の新人発掘、育成」に一貫して取り組み、パリマラソン派遣、Run as One – Tokyo Marathon による東京マラソン「準エリート」推薦、MCCへの参加と、着実にその歩みを進め、全国のランナーが目標とするレースに成長してきました。

今年も11月23日(土・祝)勤労感謝の日に第32回大田原マラソン大会を開催しますので、市民のみなさまには交通規制などでご迷惑をおかけしますが、ぜひコース沿道で全国のランナーに熱い声援をお願いします。

問 スポーツ振興課 体 TEL (22) 8017